



宮城県主催

このプログラムは「みやぎ環境税」を活用して実施しています

再エネで地域を元気に！ 再エネ活用による地域活性化事例 視察プログラム

11/17(月)～18(火) 定員30名

いいでまち
1泊2日（福島市・山形県飯豊町）



応募は宮城県のHPか
こちらから↑

対象 再エネを活用した地域活性化の取り組みに関心のある
宮城県内の事業者など（1事業所につき2名まで）

参加費 視察に係るバス代、宿泊代（朝食付き）、見学料は無料
※食事代は参加者負担です。

応募締切 10月27日(月)
※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

1日目・福島市

土湯温泉バイナリー発電所と
オニテナガエビ養殖場

東日本大震災後、原発事故の風評被害などもあり観光客が激減した温泉地が、再エネで街を元気にしようと設けたバイナリー発電所。売電収益は地元に還元。使用後の温泉水は、全国的にも珍しいオニテナガエビの養殖に二次利用されている。

仙台駅東口（10:00）
または 古川駅（9:00）

↓
昼食

↓
講話・見学
土湯温泉バイナリー発電所
オニテナガエビ養殖場

↓
ワークショップ
「対話で進める
再エネを活用した地域活性化」(仮)

↓
夕食を兼ねた意見交換会（希望者）

↓
福島市街地ホテル宿泊



写真提供：土湯温泉観光協会

2日目・山形県飯豊町

飯豊町ながめやまバイオガス発電所

米沢牛の主産地で行われている肉用牛の排せつ物を利用したバイオガス発電施設。電気、熱、堆肥、液体肥料を生み出し、地域で利用されている。排せつ物をパイプラインで移送することで臭気の大大幅な軽減も実現している。

ホテル出発（9:00）

↓
講話・見学
飯豊町ながめやまバイオガス発電所

↓
昼食

↓
仙台駅東口（15:00）
または 古川駅（16:00）



写真提供：東北おひさま発電株式会社

ワークショップ(18日)



講師
東北大学流体科学研究所
鈴木杏奈 准教授（宮城県大郷町出身）
地熱エネルギーと地域共創が専門

地元の理解を進め、再エネを活用して地域を盛り上げるには…
参加者同士で意見交換しながら再エネを活用した地域活性化について考えます。

- <注意事項>
- ・食物アレルギーをお持ちの方は、申込時に応募フォームにてお知らせください。
 - ・本プログラムの様子は宮城県のHPなどで紹介されますので、予めご了承ください。
 - ・応募の際に頂いた個人情報、本事業の連絡のみに使用します。

主催：宮城県 企画実施：株式会社宮城テレビ放送

問い合わせ：ミヤギテレビ 次世代ビジネス部 022-215-7700（平日10:30～17:30）